

京城日報

刊夕日三

第一版	第二版	第三版	第四版	第五版	第六版	第七版	第八版	第九版	第十版
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

英軍連戰連勝

英軍は英軍にセシ及びモンローを占領せり
英軍は英軍にセシ及びモンローを占領せり
英軍は英軍にセシ及びモンローを占領せり

倫敦市民狂喜す

英軍の大勝利は倫敦に出で、ソンの北なる獨逸軍線を十
六哩に互りて突破せり、佛軍は是れに參加したるが故に一たび
倫敦に近づくや市民は喜び狂はるるが如し(倫敦電報)

チオームン奪還す

佛軍大に振ふ
佛軍は勇敢なる擲弾攻撃の後三三高地北方の
チオームン砲臺を奪還せり、士氣大に振ふとの報
あり(東京電報)

獨逸航艇露艦と戦ふ

アムステルダム電に據れば獨逸航艇は六月二十九日の
夜獨逸國の裝甲巡洋艦一隻、輕裝巡洋艦一隻及び驅逐
艦五隻をストークホルムの南なるフリンゲンブルグ島に於
て攻撃したるが獨逸艦隊は少時の接戦の後退却せ
り、獨逸艦隊は獨逸艦隊の死傷者約二百名あり、獨逸艦隊は獨逸艦隊の死傷者約二百名あり

廣東に一大戰闘か

二十九日午後、廣東省城の南に於ける獨逸艦隊は獨逸艦隊の死傷者約二百名あり、獨逸艦隊は獨逸艦隊の死傷者約二百名あり

段内閣觀測

段内閣は今後南北の邊境を巡る意
思は通ずるや否や、段内閣は今後南北の邊境を巡る意
思は通ずるや否や、段内閣は今後南北の邊境を巡る意

東宮舞踏行啓

北宮殿下は三日朝舞
御見舞の東宮殿下は三日朝舞
御見舞の東宮殿下は三日朝舞

八四艦隊計上

政府は海軍の主力として八四艦隊計上
全部を來年度に計上し、計上は全部を來年度に計上し、計上は全部を來年度に計上し

理化學研究所

發起人會開議
發起人會開議
發起人會開議

總督申詞傳達

野村總督の退任に對し、寺內總督
は一日午後一時、總督府に於て、野村總督の退任に對し、寺內總督は一日午後一時、總督府に於て

五月の經濟概況

内地米價は依然不調なると、穀類
の価格は依然不調なると、穀類の価格は依然不調なると、穀類の価格は依然不調なると

工業獎勵切

京師商會館に於て、六月三十日、先
づ工業獎勵切、京師商會館に於て、六月三十日、先づ工業獎勵切

六月下旬の雨量

未曾有の豪雨
六月下旬の豪雨は、未曾有の豪雨は、未曾有の豪雨は、未曾有の豪雨は

家畜賣買頻繁

牛の出賣は、六月下旬、牛の出賣は、六月下旬、牛の出賣は、六月下旬

公侯入京

西園寺侯入京
西園寺侯入京
西園寺侯入京

神尾大將辭意

東宮舞踏行啓
東宮舞踏行啓
東宮舞踏行啓

滿鐵總裁歸任

東京特派員の滿鐵總裁中村大次郎男
は二日午後、歸任の途に上り、東京特派員の滿鐵總裁中村大次郎男は二日午後、歸任の途に上り

南共同販賣狀況
南共同販賣狀況
南共同販賣狀況

銀行會社總會
銀行會社總會
銀行會社總會

學校林松崎除
學校林松崎除
學校林松崎除

大屋長官歸任
大屋長官歸任
大屋長官歸任

總督を見送る
總督を見送る
總督を見送る

縣東安
縣東安
縣東安

新浦
新浦
新浦

山元
山元
山元

山群
山群
山群

山笠
山笠
山笠

廣平
廣平
廣平

山元
山元
山元

山群
山群
山群

山笠
山笠
山笠

山元
山元
山元

山群
山群
山群

山笠
山笠
山笠

山元
山元
山元

山群
山群
山群

山笠
山笠
山笠

廣平
廣平
廣平

山元
山元
山元

山群
山群
山群

山笠
山笠
山笠

山元
山元
山元

山群
山群
山群

山笠
山笠
山笠

山元
山元
山元

山群
山群
山群

山笠
山笠
山笠

廣平
廣平
廣平

山元
山元
山元

山群
山群
山群

山笠
山笠
山笠

山元
山元
山元

山群
山群
山群

山笠
山笠
山笠

山元
山元
山元

山群
山群
山群

山笠
山笠
山笠

廣平
廣平
廣平

山元
山元
山元

山群
山群
山群

山笠
山笠
山笠

山元
山元
山元

山群
山群
山群

山笠
山笠
山笠

山元
山元
山元

山群
山群
山群

山笠
山笠
山笠

戦争に於ける日本の大勝利に
 戦争を廢止した仕掛煙花を
 今年は「屬盛んにやらうと
 大意を公みのやうに聞きま
 した」
 ◇米國の獨立祭に當つて思
 ふのは彼の櫻の木を伐つて
 一ナニ、ゴスロ、贈るこ
 事になりしました
 ◇獨立祭の記念は實に
 一千七百七十六年の七月四
 日、フィデル・フィアの獨立
 國の爲めに歿ひました
 箭に於て公にせられたるの
 獨立宣言書の頒布當日であ
 ることなり
 市民が英兵と衝突した時で
 ありますがお馴染のウォシ
 ン頓總督は最もよく合衆
 國の爲めに歿ひました
 昭した記念であること
 ます
 ◇總督府長官務課の上田
 郎氏は米國に居られた
 價格から低價供荷を示
 ました「フオロスロニ
 聖姬に民の肩轡を」

[illegible]

永キヤラメル

原料を檢定し
て品質の統一
を期す

森ミルク
永キヤラメル

消化よく
滋養多く
清く
持のよい

どようして
梅雨より夏の

御菓子は

車ケツト入
小袋装

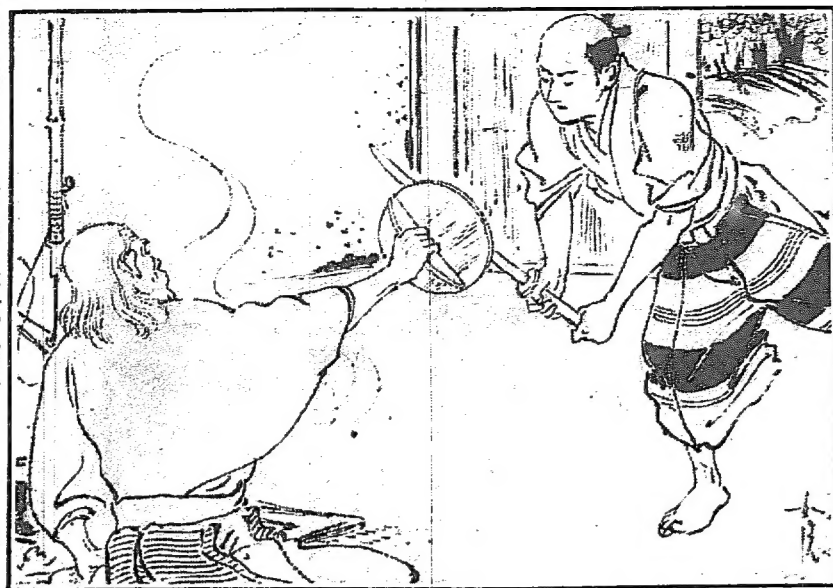
當會社特設の
化學試驗部に
於ては
藥學博士
丹波敏三氏
藥學博士
岡田春吉氏
兩顧問の選定
せられたる專
任技師數名顧
問指導の下に
日用使用する
原料を檢定し
て品質の統一
を期す

永製菓株式會社

宮本武藏

第八十八回

浪桃川如燕口演
上義三郎速記



伊東友兵衛は典座の様子を見たが、如何にも通れぬ壯者。末の見込があると思つたから、友兵衛が折角の望み放、門下にも我さうが、兎もあれ其方の技倆を見よう、其の木鐺を以て打つて見よ、俺れは此の鐺の蓋を以て對手を我す」と聞いて典座をうけた得物もあらうに鐺蓋にて對手をするとは餘り酷いと思つたが、典座は支度をして右の木鐺を持つて「然、これは如何ひます」と上段に振懸つた

極意を御教授に預りたく、此段伏し、何年といふものは死ぬまで修業で、何年といふ決して限りは無い、

友某は鑓蓋を取つて中段に構へ、友「
ヲア打つて来い」頼り／＼附けて居た
が打込めない、其内左りの眉先に、鑓
が隙が見えたるから典勝は典「御免」
といつて打下した木鐸をヒラリと
身を抛ひた友「友某老人、持てる鑓蓋に
て引懸ひ」友「エイヤ」と氣合ひを懸
けて木鐸を打落し、右の鑓蓋にて確
かり押へ、友「何うちや典勝、恐れ入
つたか」典「恐れ入りました」と後へ
退つて平伏をした、鑓蓋を持つて居
る手が延びて居れば鬼も所、延びな
いから恐くすると眉間を破られます
から、ソコで恐れ入つたのでござい
ます、其處を見切つたのは典勝も中
々出来る者であるが、友某の目から
見たら全く小兒同様の仕末でありま
す、典勝は愈々恐れ入つて、典「此
上は典勝生のお手許にあつて鐵道の
所、見返がないから、他へ轉じよと」

物の程の附くまでは先づ十年であ
うかな、典「十年、十年とは長い
けれど、自分の心得では、二年か
年の間に何うか通れる技術になつ
たりしたいと思ひますから、エ、
生如何でございませう、寝食を忘
て勉強いたしました、友「さうさ
の位の勉強をして、二十四五年先
三十年だ、典「エー、朝夕暇な
お世話を願ひまして、友「さうさ、
う心を入れてやつたら四五十、擧
かな」典勝驚ろた段々長くなる
黙つて居る方が宜い、典「何分願ひ
ます、友「ソコで典勝、斷はつて置く
其方の心から暇などを取る事には
なで、今日から差許すといふまで
武藝の誼をしても可から、典「エ
友「其から物に従きて常所に居ても
可から、典「生のお手許にあつて鐵道の
所、見返がないから、他へ轉じよと」

[illegible]

マズミに就つては、是れいかな先生と慕はるゝに鐵骨を忘れて終つたのだらう、下山をしようからん、イヤ／＼此處斷つてあつた、僅きて下山をしようなぢいよ上景が出るも人相に現はれるさうすると切るといつた事に寄るとその親切なれない困つた事出来た、第一鞍が斯んな大變だに生じて了つた、刷りに行くのは大變だ、ア、少し抜かう」と用意の毛振があつたら岩角へ足を掛て谷川の流れ、山間の風景を見ながら興廢を抜いて居ります、樂装をして居りました友藏先生目を開いて見ると、精出して襦を抜いて居る「友

ねしはキヤラ
坊やア千菓子
変しやアンパン本村屋の

(電話二七〇四)

アハ、ハ、如彼拔きたな、一ツ教つてやらう」とソツと起ち上つて、襦足しながら興廢の後ろへ廻つたが、興廢は知らない、エヒッといふ一



師を取替へやうな正しい氣が出る
と、人相に現はれる、スルと其方を
切捨るから左様心得く典へ左様
の手許に居て辛苦をしなければ修行
にはならん、サア典膳、早速にが水
を汲んで来なければいかん、此の流
れのは可かんぞ、彼方の谷間の清水
を汲んで来い典膳、其ました友、
から典膳を連れて、其が所んだら
扉を叩く、其後自然著を握りに取
るのだ、何うも用のある事大變、典
膳牧奴の山の中へ援助に来たやうな
もの、三日経つても十日経つても劍
術の話しもしない、ソレ典膳水だ、
ソレ春中を叩けど、どうも一人で構
いて居る、一月半ばかり経つて典膳


婦人科 二 宮醫院
京城町四一
醫學士 二 宮亮吉
電話三〇一〇番

ルーテサツ

男用一打
四拾錢上
製六拾錢
鐵形並一價拾錢女用一打七拾錢
月經帶一圓八拾錢國各種（送付）

▲花柳病自宅療法（近次）
東京下ラツグ商會清野本都
京橋本町二丁目安齊北


滋養 石 用途
大福 麥
 東京大南門外
池田製麥所
 電話 七五九番
 電話 二七四番
 電話 七四九番





京純養母町
荒井牛乳販賣部
電話二〇四六

ヨグルト

荒井の牛乳

滋養「健康母」

石龍子 弟限本修平氏
今般車京性相學舍胡鮮支都主幹として當地に在任當分記の處に於て一般鑑定所 京城街南門日の丸旅館裏定料 金拾圓 但此種書入へる者は、醫服細料
常地 後援者一同


 半間屋
 田屋舖
 本店
 京都北門外
 大坂一丁目
 住可送御來場
 月毎小會進新
 美町前持

大井路
大阪市東区
九百八十二番地
物販部



られて妨顯なき御方は藥物治療の最
後の御識しにへがきにて南照會され
は當地研究の上最もヨクキク妙藥の
目宅療書を無代で差上げます
東京府下大森新井宿字根岸中江藥房

○ **ぢゅう薬** 痔疾に 効める人に
 ●いんぢゅうはしり痔 ●裂痔
 ●脱肛痔 ●痔出血 ●痔瘻
 ち痛にて永くつらしい苦しき思ひを
 なされ運々の御治療や新薬を服せられ

か人工妊娠療法の子の出来る「生ずるの機」を知れば、
女面白く詳細に説明する男
女名義で「妊娠」を「海綿」
と表現し、人工妊娠入定入定八十
るが今聞けば、希有者に「海綿」
共五十六日下投し、愛蔵
き、愛蔵に違はず、△切手代用
生ずる者に面白き
一割増△監査東京 八四五五
東京日本文学館 玉現社

妊産法と安産法
△醫會發表男女必讀の面白
き珍書

新東京式お化粧料
粉白トー

美しい湯上りの化粧

湯上りにつけたレイト水白粉



他の白粉では追も及ばぬ
シート白粉は新東京式お化粧料
として非常に流行して居ります

東京平尾鰲平

一日爽快なる
滴で

ワグネル香水

世界百花の精を集め
清新な露りは意氣で
尚て何人にも愛用せら

丹平商會

水香一隅



大改善せる
美滿津製ラケット

極めて工合最上な品々を、月々仕立、
 に貯蔵し居る爲め今般の發賣品は其の重量
 各位の御好まじ次第也。
 パランスの工合最も良好にして且つ又大に
 美觀的に製作せらる。敢て各位の御愛用を
 祈る。
 我先般發賣のレギュレーションボール（愛
 球）は爾來内外人間に高評を博し居れば此
 れもラケットと共に御愛用を給はらんこと
 を希願ふ。
 定價表は御申越次第送品致します。
 東京市本郷區
 本郷五丁目
美 滿



仁丹

言金
涼味萬解
中神身
築の運命の建
者なり
(西蔵)

佳也

[illegible]



● 因縁深い東清鐵道

二日露親善の賜二抑も二十年の昔
 二軍事輸送に多大の貢獻二小村全
 權の主張地點二某將軍談

久しく問題となつて居た東海鐵道も露國は其舊藩を愈々日本に譲與する事になつたらしい海に結構な事である勿論之れも日露戰事の際である一體東海鐵道は寛城子、順長からハル濱迄百四十七哩十二鎮かつて今度日本に譲與せらるゝ處は長春から第二松花江迄で七十五哩であるから先づ

▽全線の南半分△ を賣む

に著手し一萬千里の勢で千九百年に工事を終つて全線開通を見假然業を開始したのであつた而して此の爲に日露戰事當時に露軍の爲意を妨るを發謀し軍事機密上多大の貢獻をなして能く露國を達二箇年ほど互る

▽大戦争に堪へ△ しめわかれの綏綏經營

のである元來此の綏綏經營は遼東半島租借に關する條約中に規定

事になる其の間には木沙予ト海ノ密
門、イオマン、老鷹船、グラツト
ボオルムなど云ふ各縣があつて其れ
から松葉江の敵岸に達するが此の間
には有名な北海道大豆の産地であつ
て其の出發期なく其れは「秦蘭」
らしいものである一體此の東海諸道
敵岸線は頗るいささかつの多い處で
二十年の昔日清戦争の終局、

▼露獨佛の三國▲ が周旋

せられて居て之を基礎として千八
九十年に露清兩國政府の間に契
を締結したもので半島の租借と
の線路とは最も密接な關係を有し
半島

△租借の一部分△ と認
め敢て不可なきものである其處
以て彼のボーツマウス裁判の際に
小村公藏は津島の租借權を求に議
する以上は論理上當然の結果とし

條約に干渉し日本から遼東半島、滿洲國に還附させたる報聞として露國が其の敷設權を獲たものである其れは恰度千八百九十六年頃露國が東清の野心滿ちたとして居た時駐露公使カシニエ氏が巧妙な外交で先づ李鴻章を莫斯科に於ける露帝戴冠式に誘ひ俄に外相コボパノフ氏と會見の機會を造り直に批准を下して

此後露國は俄ち計畫する全權の云ふ處は恰度其の時小村全權が第

少しく誤歩し△て露松花江の通過する地點を以て區分

としやうと懸念したガウキワラ氏區分點は重要な場所に定むべしと

其の結果寛城子(長春)以南

我に譲與することになつて今日迄

て附したるが今度露國から譲與する

云ふ處は恰度其の時小村全權が第

東清鐵道條例△の制定

を直に命令するカボツ技師を技

ではないか。要に我は東洋戦争を謀るに露國に好意的援助をせし露國は其の要求を容れず東洋鐵道を割譲したと云ふ事は眞實日露の親善を實現した事であつて殊に今度の協約が殘んじ攻守同盟同様なものは兩國の爲慮すべからざるのみならず東洋各邊の平和の爲大に配せざるべからざる事ではなからうか

青島居留邦人七名は行衛不明となれ

邦人行衛不明

青島居留邦人七名は行衛不明となれ

●漁船を威嚇す
大連北岸山越り居住漁夫和田利市外
五名は去る二十三日午前五時發大長
山崎浦經三海里の海上にて鰈漁中二十
十五日午後九時頃陸方面より經六十
石積みの支那兵艦一艘發進し來り
突然の攻撃で威嚇したれば一同
は是れ敵艦の襲來に相違なしと感付
き俄に鰈子窟方面に向け全速力を以
て逃走したるに敵は二三千分計り追

跡し來りたる模様なりしも速力及ばず引退したるものゝ如く何處とも知れず姿を没したるが膽船は二本櫓の黒染したる帆を張り帆の一端は新しき白布をつき最近修繕したる形跡あり乗組員は多分六名位なりしと

(大西)

長野縣下高井郡往野村字馬曲炭燒業
 澤本今藏(せが)が二十七日馬曲山字無
 計を以て稱する數十丈の鐵布に近き所
 迄行かざるに傍なら大蛇に一丈五
 尺餘の大蛇が雄雌二匹躍の如くなり
 居たるより大に驚き逃出したるに一

雄雌の中一頭を撲殺す

一丈六尺の大蛇

世界的食物

共通會

◆卓上（たかじょう）料理（りょうり）◆
 ◆洋酒（やうしゅ）なる酒場（さかば）の趣向（しゆかう）◆

◆米食（いしき）の本場（ほんば）なる日本（にっぽん）では米（こめ）の料理（りょうり）が四十（よじ）幾種（いくしゆ）に無（な）いには米（こめ）の調理（ちようり）法（ぽう）があるに二百（にひゃく）種（しゆ）に餘（あま）る米（こめ）の調理（ちようり）法（ぽう）があるといふはなしから茲（ここ）に世界的食（せかいてきしき）物（ぶつ）共通會（きつうかい）なるものが三日（さんじつ）の午後（ごご）七（しち）時（じ）から朝鮮（ちやうせん）ホテルで開（ひら）かれた

此の日の列席者は山縣政務總監、石塚、宇佐美、大星、園分、松永、長官を始め小宮次官、小松副長、兒玉局長、持地局長、秋山參事官、古畑警務總監、豊永博士、中村技師、青木課長、遠藤秘書官等の總督府前首長。

◆白耳義總領事ブリボジヤ氏、露國總領事ルーチニ氏、支那總領事富士英氏、英國總領事レノ氏、米國總領事、フラー氏、佛國領事グラハ氏、英

共
通
會

●吉原米拵邊、野田副總裁並ひに各理事始め幹事館には水越、木村、三島の各理事新聞通信社代表者等約五十名を揃し掛々の盛會であつた

●食卓は指原支那人の苦心になる水田の恩恵を現した盛花に美しき雪洞及び草花をあつち見るからに酒濃たる推へであつた

●先づ最初のオードヴルには胡瓜、茄子の變形とも云ふべきものが現れた

●大悅びのやうであつた

●お次ぎは日本のごもく饅とも云ふべき陳付け飯が出されたがこれは飯をソップで仕立て其の中に玉葱、赤茄子、青胡椒と肉の隠詰めを入れたので日本人の口にはカレー以上に美味なるものであつた

●さて英國國の牛軋肉に飯油炒料理は肉ロースを洋酒に煮込みをそれとライズ、コックケールの付け合せて肉と

シツプには魚卵に味をつけたやうな
 頗る味のよいものが持ち出された、
 これは英國では主に作られる料理で、
 佛國ではボタージュ、アラレンドと稱
 するもののだといふとであつた
 ◆次には高製鮭鮮魚に飯を聯合せし
 佛國式の料理が出されたがこれは元
 山の鮭を冷菜と飯に包んだ頗る美味
 いものであつた
 ◆またお菓子のカレー、ライス、車
 輪餅に金輪品の品を取り混ぜたもので
 飯との聯合せが胡々の味ひであつた
 ◆またインターナショナル米製の蒸
 菓子にはレモンの皮其の他で味付け
 られた頗るあつちした品を用ゐる猶
 米製の菓子にはカステラが出され
 何れも菓子への應向であつた
 ◆猶ほ席上吉原東拓郷裁は發起人を
 代表して一席の辭辭を述べ小松節長
 も起ちて一席の英語の挨拶を試み次
 いで山縣政務總監の挨拶より耳表義
 領事、ギンジャー氏の愛蘭多き辭辭等

は鎌首を縁火の如き紅の舌を
し今臆目免れて追ひ来りしより聲
限りて救ひを求めたるは附近に居
る者たる仲間の三名が丸太を掲げて
付け来り此有様を見るや一時に闇
蒐つて大蛇を油釜々に挟り飛は
て投げしなるが右は胴の廻り新三
長き一丈六尺餘ありたりと(兼良)

●**呆れた亂暴男**
南北青都居山崎浦里(附野崎)は
は后田事務所にて書記全盛が執務
中夢言を發したるため名譽毀損にて
金三十圓の處分を受けたるを怨み

と認め此程前記發起者十名を各罰金
三十圓宛の嚴罰に處したり

●**釜扶斯と赤痢の流行**
京城府内にて六月中腸胃扶斯に罹り
たるもの内地人二十三名、朝鮮人十
二名、赤痢内地人二名、朝鮮人五名
に達したるが尙蔓延の兆あり當局に
ては豫防及び撲滅に盡精中なるも七
月に入り一日及び二日の兩日間に
て腸胃扶斯内地人七名、赤痢内地人一
名を發生したる由此際一般注意を要
するべし

二月十三日午九時頃再度領事務所に侵入し、秘書中なりし全吉留の肩に鞭を打ち、手紙を投げ出すなど手に負へざるを妨害せし北京支監にて懲役二年間の判決を受けたるも服せず。京城控訴法院に控訴せり。

●死兒を密葬す 開城郡青羅館廣昌里李植實(三)は妻金氏が昨年正月二十七日男女の死兒を分娩し男兒は同月二十九日死亡したるを以て同日密かに其の屍體を自宅南方の松樹面轉某の所有地に埋藏して打過ぎ居れる内此程に至り發覺し墓地規則違反として京城地方控訴院にて第六十の處分となる。

○世界的食物共通會：朝鮮ホテルに於ける。

▲東京市立第一圖書館
▲日本新聞記者協會

三百餘名を以て超
織せる襦母子袴は
毎月九日及び二十
四日の兩日間會し
一人一回の掛金六
十錢となし抽籤法
に依り一人の當籤



者に九十圓渡し
て取退きと定め
額は同業者に貸
付けて利権を圖
定にて既に十三
回を繼續し來り
たるが鍾路署に
ては其組織法に
弊害あり

支那銀行實業
陳雨氏等

やうで少々辛くあつたが本場の印度
にも芳しくなりて外人のやうにも

●吉原米拵邊、野田副總裁並ひに各理事、始め銀鹽には水越、木村、三島の各理事、新聞通信代表者等約五十名を算し、掛々の盛會であつた。

●食卓は指原支那人の苦心になる。水田の愚態を現した盛花に美しき雪洞及び草花をあつち見るからに酒濃たる推へてあつた。

●先づ最初のオードヴルには、胡瓜、茄子の變形とも云ふべきものが現れる。

●大悦びのやうであつた。

●お次ぎは日本のごもく饅頭とも云ふべき、陳付け飯が出されながこれは飯をソップで仕立て其の中に玉葱、赤茄子、青胡椒と肉の腥詰めを入れたので日本人の口にはカレー以上に見える。

●さて英國風の牛軋肉に飯油炒料理は肉ロースを洋酒に煮込みをそれとライズ、コックケルの付け合せて肉と

シツプには魚卵に味をつけたやうな
 頗る味のよいものが持ち出された、
 これは英國では主に作られる料理で、
 佛國ではボタージュ、アラレンドと稱
 するもののだといふとであつた
 ◆次に高製鮭鮮魚に飯を聯合せし
 佛國式の料理が出されたがこれは元
 山の鮭を冷菜と飯に包んだ頗る美味
 いものであつた
 ◆またお菓子のカレー、ライス、車
 輪餅に金輪品の品を取り混ぜたもので
 飯との聯合せが胡々の味ひであつた
 ◆またインターナショナル米製の茶
 葉子にはレモンの皮其の他で味付け
 られた頗るあつちした品を用ゐる猶
 米製の菓子にはカスターが出来る
 何れもの菓子の應向であつた
 ◆猶ほ席上吉原東拓郷裁は發起人を
 代表して一席の辭辭を述べ小松節長
 も起ちて一席の英語の挨拶を試み次
 いで山縣政務總監の挨拶より耳表義
 領事、ギンジャー氏の愛蘭多き辭辭等

東京大權握の京城興行に際し本社は覺きに讀者諸君のために木戸
幕内優勝力士豫想懸賞
割引番外好み相撲等の特典を提供致すと同時に一行
興行中の景況を添へ且つ出揃力士獎勵の一端にも横綱大關を
除く幕内優勝力士に本社紋章入の特製大銀盃一
箇を贈る事を發表致しましたが今回又復讀者諸君のため
簡單にして然も興味ある一大懸賞募集する事と
なりました。それは優勝力士の豫想投票でありま
す。この方法は諸君の優勝すること信する力士の名

を記して投票さるればいゝのです其規定は左の如く定めます

一投票は郵便票並一紙に募引優勝力士一名に限り記す事一優勝力士二名以上ありたる時は下位者に募集を購るを以て随つて豫想能中は下位者となる一的中者多數の場合には抽籤に依る一締切期日は七月十三日正午一宛先は京城日報社角力係一賞品は逆て發表す

小兒^{コノコ}弱^{ヨロ}る 平安南道大同郡南^{ミナモト}に
居るらし、銅佛の高きは一寸八分五厘から大は一寸五分まであるが中には精美なる蓮座座有つてあるのと至るからとある、銅佛

中誤つて落込み死にせり

●嫉妬から投身 京橋道水原
郡安前町古妻里龍成五妻柳氏(一)は六月二十六日午後十一時頃同里の溜池に投身して自殺を遂げたり同女は嫁で成五の妾と大娘の間柄なりしより嫉妬を起せし未右の所爲に及びた

れだけ

の調査は去る大正三年關野博士等の手に試みられたとあるが兎に角あ

金
牌
愛領
本橋香油

大邸の大相撲

打揚大田に向ふ

大邸に於ける東京大相撲二日目千秋楽は相變らず内意氣にて大入道員となり、當日の勝負左の如し(大相撲負)

大島岩	成瀬山	朝日勝	駒馬
富門塔	綾鶴	一港	男泉
宮城山	△中入後		
常の花			
龍ヶ崎			
峯木山			
梅川			
稻葉緑			
繪帖亭			
程そつた所はないやうです			

新羅佛を見たこともあつた矢張り旅行した頃には各地に於ていふやうで明治四十五年の年私が朝鮮内地を旅したときは驚ないやうである併し、たゞころは妙なやうで朝鮮内地を

▽優秀な新羅佛の澤山揃つたところを黒く長くつやを照として磨りけぬ妙手也

髪を黒く長くつやを照と

さびく

として磨りけぬ妙手也



紫雲巖 小笠原 宇都宮 逆鈴
 霧迦麻 近江富士 源民宮 九州錦
 對馬洋 栃木山 西の海 大佛山
 栃木山 宇都宮 近江富士 紫雲巖

盗れた新羅佛

金剛山楡崎寺の珍寶
 過に金剛山の楡崎寺で盗まれた背銅
 製の新羅佛はあの時代の佛像として
 あれ程深淵と一緒に在つたものは稀ら
 かつたが、毎に皆しい工をしたものは

讀者文藝

▽假め館

煙草金と煙管
 ○京城星光
 ▼佳作 仁川 山本
 昭和京城今喜草一
 (先見) 飯山 民野
 東城 水津孝子

(加藤禮次氏談)

[illegible]

成功と出世の近道
 どんなに不景氣の時でも日用の雜貨を特殊の
 聯合機關と致さざる製造と配力に依り世界無匹
 の特權し市價の三分の一に卸賣するの本社の一
 村一名販のの特約組合店又は莫大の收入ある
 二部獨占支店となつた金儲は樂に出來せし
 即時に即刻に返券人營業人に請求せし
 れ此破天荒なる本社の内容を知らし時に爲
 ぬなる諸君が即時組合員として入會申込を
 すす否に
 是將失敗と成功を忘れ給ふ事
 東京神田區萬世橋際 電話神田二八四一
 振替云〇四八金 外口日本通商聯絡株式會社

定價金二十八錢現銀二錢五
 兩
 前代金 正金 四錢 五錢 七錢 九錢

高評集注
 せる七月號

[illegible]

小説あら浪井川洗
 話一葉の酒の力新大
 運貨酒の迫
 狐迫
 本山僕
 中道
 山郎
 談新語
 江島生島
 松神
 寶田

[illegible]

簿記募集

○**第一製作者所** 京城監獄內
○**第二製作所** 原石置場京城本通二丁目一〇三
原石並に庭石置場 京城南大門外東亞煙草株式會社裏地

大々的勉強についで御用に随うべく格別
多少に不拘御用命仰付被下度奉懇願候 敬白

東京本町二丁目電話四三〇番

森啓助商店

富豐味中絕卓質品

優等

商標

金露

蘇州府

攝津灘魚師

釀造元大塚

製造所

各地到所信用ある食料品
店に販賣せり金露印と御
指定御買上被下度候

發賣元大塚京城支店

京城南大門口三丁目

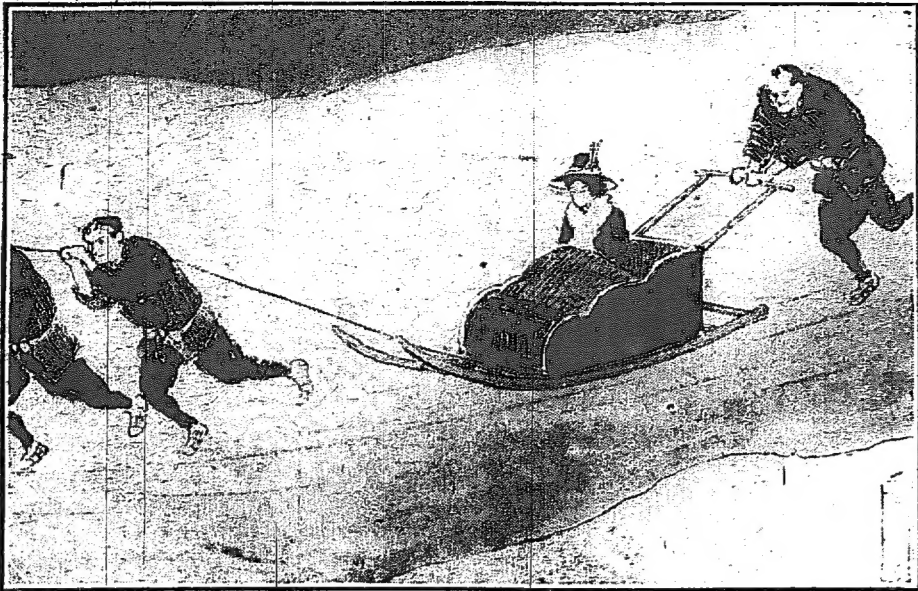
日本酒記專修學校



(三四)
山ま中なの孤こ村そん

生駒は朝飯が済むと急いで支度を
して、山形市へ赴くことになった。
子爵は大野と源作とを案内役にして
朝日嶽の登山口にある大井澤村へ
向つた。生駒は犬を連れて引連して
来て、直と跡を追うといふ約束だつ
たのである。

今は杉山郵便鐵道といふものが出
來て、この神戶驛から各地町といふ
ところまで、卅分ばかりかゝると足
らせれた鳩子をはり、後を回附つて
は、父の顔を見て打笑むのであつた。
子爵は雪の強い光線を避ける爲に、
大きな黒眼鏡をかけて、物珍らしさ
うに附近の景色を眺め廻してゐた。
二月ほど降續いた雪は地上に四五
尺もどつしりと積つて、野も丘も
木も只一つに白粧をおしかせ、世
たやうになつて、波のうねるやう
な曲線を走らしてゐただけであつた。



を勞せ歩に往れるけれど、當時の雪中旅行はやはり蹠か徒歩によるの外はなかつた。子爵と塙子だけは竊て前に二人、後に一人、都合六人の擁子に二人仰々しくお伴である。大野と麗作はその後について息を喘らしながら競走した。

この地方で冬期中唯一の運搬費概とせられてゐる樺は、柔の樹を削つた猪牙形の足二本、横木を打込んで櫛子形に組合せて、その尖端に綱を結び上げて引くので、人力車代用の物に似た轡を一人が押すとなつてゐる。鏡のやうな雪の上を滑走する時々では、護體板の車以上の速力が出来る勢に來なければ解するほどの妙なきない冬の祕の大きな威力は、土いふ土を征服して丁つて、その下へ息つく地獄の寝るに暇者は、枯草のやゝ動かし難いものであつた。變一すじ軌がすこすこ能くぬける。幾つ、けれども朝日點綴の大山脈が西の方に超然として發つてゐた。やうど櫛の具のブルシヤンブリュートを彫いたやうな淡青色の澄切つた空を背景にして、すつくさ踏みはだかぬつた月山の裾から續いた標高千九百五十米突の雄大な姿を仰いだ時、いかに爪を磨き牙を嚙らしてゐる猛獸の除けが、曲かに耳にひびくやうな

科 黠 皮

皮膚病 瘡毒 疥癬 淋病 梅毒 生殖器
生殖器 性病 淋病 梅毒 瘡毒

佐藤醫院

(電話一七三番)

んです
『アハ

のよ。オホ、
、、○天狗も嘆息するぢや

●奉贊會獻金者

[illegible]

一 賤半を有利に使用

●強精健腦の法

●腦神經衰弱療法を教ふ

何をするにも仕事に氣の乗らない
不熱心な人を「無精な人」と云ふ、
以上の氣無精、頭痛、視力衰弱、
化不良、睡眠不足、短氣焦虛である
七海病にこそなす。

て見たりと云ふのである、それなら
たに斯く無情になるのか、女なら
はなれ、胸襟経綫綱と云ふ精神の
間違ひである。無情は決して生来
で仕方がないとしてゐるもの之を責
常人は勿論傍の人をも之を生れつ
で見ることが極端に偉である、而
失を受けてゐるかは、常人よりも
處して行く中、常に如何に多く
た行へり、

此れが「メ」を非常に矢張り、
で、少しの事に腹を立てると云ふよ
様で一體に思慮淺薄に我意が強
なつて、常につまらぬ事に氣をい
うらしい、仕事にはすぐ飽きて工
欠伸は無暗に出る、事務中に眼氣
覚ゆる、ちよつと立つた途端に眩
を起すなど皆此種胸襟経綫綱ヒステ
一の症状である、遂には記憶力
鈍くなる、決断力や自實力が衰
たつて、

所謂頭痛持の人も此病氣の爲であつて我と我身に頼りなくなるやうな事になる、次いで来るものは悲觀

と云つて頭が重く壓される様な威情であり、厭世的思想である。斯の如き腦神經衰弱ヒステリー患の増加が國家に於て如何に惡なるものであるかは云ふ迄にもない事であつて、幾多の經世家が此救済策に心を傾するも當然の事である。現代民間として健腦劑レーベン^{レベン}の發明に對し、**岡田博士**や**森實博士**を始めと多く**の陸軍醫學博士**が有効證を與へるに、見ても最善の良藥

日の新聞雑誌に強精健腦の法を力
要する處は、斯る良藥、レーベンを廣く世に推廣する
由は即ち斯うである。レーベンは

人の不幸を救ひ、それに伴ふ諸般の社会現象を除かんと努むるに於けるが、醫學士高橋爲治氏が其著「精神療養術」を廣く世に無代頒布しゐるのは亦其目的に外ならぬ。

●安眠慰心の術

一體此腦筋衰弱ハステリイは、人が知らぬ中に、どんな病氣で患へたる病氣であつて、よく一息を吐く病氣になつてから始めて氣が調子で變になつて、中には最初と云ふ有様である、中には最初から氣のつく人もあるが多くは、胃腸病、間達（たり）女たら惡くも

一、米食常食の日本人の性質に最も適合せる植物性糖である、第二に、糖の要素リンサンを多量に含持し、第三に其製法が最新式のの如く、以てレーベンが如何に神聖なる装置を有し、其發明者高橋士の功績が如何に重大であるが知れやう、然らばそれと共に疑はるべきは、同氏著の治療書が亦如何に信頼するに足るべきかと云ふである、それはハガキで申込まれた（すれば直に無代送呈されるのだ）

●處世成功の福音

い子宮病だなどと醫者さへ云ふて
るこがある、此病氣になると視
烈しくなつて、生活に對する心勞
をも此病氣は世の生存競争が、

食物を讀んでゐても記憶が惡く
 讀みしに意味が解つて居ないや
 ある又消化不良で胃は不快な感
 覺じてゐる、其他不眠症や短
 なども大きく症状である、夜眠
 だとしてもなかく眠れず莫慮な
 想やつまらぬ取捨苦勞に迫はる
 が浮いて仕方なく、遂に晩の鐘
 鳴いて辛く眠るも惡夢を見る等
 立派な癲癇經路病である……
 聖人は斯の如き軍を治療せん
 と苦心十年かの有名な健腦精研
 ペンを發明したのである

多くの如に從ひ、現代は勿論、今
 益々増加する病氣であるが、**腦の**
 病と否とは事實の成敗に絶たな
 係あるは云ふ迄もない事であるか
 斯かる人は一刻も早く治療に手
 すべきであらうと思ふ、即ち其爲
 腦の營養素としてレドベンを服用
 して代用呈せる「**腦神經衰弱療法**」
 新療法」の二冊を一讀せられなば
 此治療法は簡易明快何人にも理解
 することが出来る、東京京橋區
 二十二區森下町南定太郎宛にハガ
 にて申出されれば早速無料贈呈さ
 れるのである

[illegible][illegible]